

(仮称) 第2期君津地域広域廃棄物処理事業基本構想(案)に係るパブリックコメント
 手続の実施結果について

1 意見募集の概要

- (1) 意見の募集期間 平成30年7月1日(日)～平成30年7月31日(火)
- (2) 提出者数・意見数 1人、8件
- (3) 意見の分類と市の対応状況

対応区分		件数
A	意見を反映し、素案を修正したもの	0件
B	意見の趣旨・考え方が既に素案に盛り込まれているもの	0件
C	意見を反映しないで、素案どおりとしたもの	8件
D	その他の意見、今後の市政の参考とするもの等	0件

2 意見の概要と市の考え方

整理番号	意見の概要	対応区分	意見に対する市の考え方
1	流動床式ガス化溶融方式で特に最終処分量の比較で評価が低いですが、最近の流動床式ガス化溶融方式では、不燃残渣もスラグ化し再利用するため、埋立処分するものはなくなり、シャフト炉式およびストーカ+灰資源化方式と比べてもそこまで差がつかないものと考えます。 また、スラグの品質も JIS を取得している実績もあり、シャフト炉式と比較しても遜色ないものと思われま	C	流動床式ガス化溶融方式では、不燃残さもスラグ化し、確実に再利用している実績は見当たりませんでした。評価に際しては、実績に基づく確実性も含めています。 また、スラグ品質における J I S 規格の取得は重要なことではありますが、結果としてスラグの確実な再資源化が実績としてなされているかという観点での評価となっています。
2	ストーカ+灰資源化方式においても、資源化の範囲を飛灰および不燃残渣にまで広げることでシャフト炉式よりも最終処分量を削減することも可能と考えます。	C	シャフト炉式ガス化溶融方式では、スラグ・メタルという資源化物を、有価にてリサイクルしており、最終処分は飛灰のみです。 ストーカ方式+灰資源化では、焼却残さを、灰資源化業者に有償にて処分委託することが必要になり、また、灰資源化業者についての資源化率の把握及び管理が難しいことから、最終処分量における評価は低いものとなっています。

3	上記に伴い、流動床式ガス化溶融方式およびストーカ+灰資源化方式でも維持管理費用は低減するものと考えます。	C	各処理方式における維持管理費用については、整理番号1及び2における「意見に対する市の考え方」を勘案し、総合的に判断して参ります。
4	流動床式ガス化溶融方式について、ごみ質によっては完全溶融が難しいとありますが、発熱量の低いごみの場合でも助燃することで完全溶融は可能となるため、そこまで評価に差をつける必要はないと考えます。発熱量が低い場合、助燃量が増加するのは、流動床式ガス化溶融方式だけではなく、シャフト炉式も同様です。	C	流動床式ガス化溶融方式における特徴を示したものです。流動床式ガス化溶融方式では、助燃により熱量は付加できますが、溶融温度の高い不燃物を溶融するために溶融温度を高くすることは、排ガス NOx（サーマル NOx）の増大などによる限界が考えられます。シャフト炉式ガス化溶融方式では、溶融温度を上げてNOxは発生しませんので、溶融温度の高い不燃物も確実に溶融が可能です。
5	全般的に既設方式であるシャフト炉式が優位となるような評価ポイントとなっているように思われます。重要度の決定方法により、各方式の点数は上下することから、今後事業を推進していく中で、納得感のある決定をお願いいたします	C	評価項目については、最終処分量の削減など、君津地域4市において課題となっているものを中心に、大前提となる安定的な操業や経済性、近年社会的に問題となっている地球温暖化などを項目としたものです。また、評価項目ごとの配点についても、君津地域4市において課題となっているものに沿って、軽重を考慮し決めています。
6	「流動床式ガス化溶融方式」で「低カロリーのごみなどでは、助燃剤を使用し」とありますが、これはいずれの方式でも同様であり、この方式特有の事象ではないため、他の方式にも同様に記載するか、削除等の修正が必要と思います。	C	流動床式ガス化溶融方式における特徴を示したものであり、助燃材を使用した場合には中間処理施設におけるCO ² の排出量が増加することを記載したものです。シャフト炉式ガス化溶融方式では、コークスの使用が前提となっており、ごみ質によって使用量が増減します。また、流動床式ガス化溶融方式では、燃料を使用しないことが前提ではありますが、ごみ質によっては助燃材を使用することが特記事項として必要になります。これはごみ質によってその使用量が増減することが前提となるものです。なお、ストーカ方式+灰資源化では、ストーカの段階では極端な低カロリーのごみでない限り、助燃材を使用しないことから、特記していないものです。

7	<p>「ストーカ方式+灰資源化」について、資源化方法がセメント化しか無いような記述となっていますが、熔融等による資源化方法もあるかと思えます。方法の多様化により、懸念は払拭ないし低減することから、マイナス面は見直しが必要ではないかと思えます。</p>	C	<p>最終的な比較評価を行う前に、各種方式を幅広く比較し、絞り込みを行うための検討を行っています。</p>
8	<p>「シャフト炉式ガス化熔融方式」が望ましい処理方式」について、長年の処理実績があり、大きな問題も発生していないため、優れた処理方式であるとは考えられますが、他の方式も優れた面があることから、他の方式を除外することなく、より優れた方式を選定できるよう方式を絞らず、広く優れた提案を受け付けることができるように本事業を推進していただければと思います。</p>	C	<p>他の処理方式を含め、一般的な評価及び詳細な点数評価などを行い、検討した結果に基づくものです。点数評価に際しては、君津地域4市における課題を解決するために最も望ましい処理方式を選定したものです。</p>